

令和2年度学校評価表

青翔開智中学校・高等学校

建学の精神からなる本校の中長期目標		今年度の重点目標	
<p>「探究」複雑な課題を高い創造力によって解決する取り組みを「探究」と定義し「探究できる人材」の育成を推進する。さらに文科省SSH校(指定期間H30～H35)として探究カリキュラムの開発を進めるとともに本校の探究活動を県内外へ発信・普及させる。</p> <p>「共成」共に成長する力を育成する教育をグローバル・ダイバーシティ教育と位置づける。グローバル・ダイバーシティ教育では多様性の理解を進め、英語を道具として場所や相手を選ばずに成長できる人材の育成を進める。</p> <p>「飛躍」自分とは何かを問い続け、好きなこと・得意なこと・社会が求めること・価値観を追求することにより、進路をデザインし実現する。</p> <p>さらに、探究活動を下支えするICT及び図書館の環境を充実させ探究を後押しするとともに、生徒と教職員が主役となり、保護者からの協力が絶えない学校創りを目指す。</p>		<p>1. 通常授業における探究スキルラーニング(旧:図書館利用学習)と探究授業におけるルーブリック評価の開発運用とルーブリック評価に対するフィードバックの徹底。</p> <p>2. 多様性理解に向けた6年間の学習の体系化とその学習を進めるクラス作りの設計。</p> <p>3. 海外進学も含めた進路デザインとその実現に向けた6年間の進路計画を体系化。</p> <p>4. 上記を円滑かつ効果的に推進するためICTおよび図書館環境の充実と支援の体系化。</p> <p>5. 生徒と教職員のやりたいことを重視した学校運営。保護者の行事参加率の一層の向上。</p> <p>6. コロナ禍における学校運営の見直しと、ICTを活用したwithコロナ時代の学校運営を準備。</p>	

評価項目	具体的目標	年度当初		評価	評価結果(年度末)
		具体的方策	評価基準		
重点目標1に 探究学習・SSH 対応	<p>A. 「探究」を評価するルーブリックの開発・運用とそれに対するフィードバック</p> <p>B. 探究の成果向上のためのスキルを身につける</p>	<p>A. 探究学習を評価するルーブリックを探究委員で協議しながら開発・運用を進める。</p> <p>B. 探究の成果向上のためのスキルを身につける授業を探究スキルラーニング(旧:図書館利用学習)と位置づけ、各通常授業で展開し、フィードバックまでおこなう。</p>	<p>A. 高校は昨年度作成したルーブリックを全学年で運用(フィードバック含む)させ、中学はルーブリックを完成させる。</p> <p>B. 各教員の探究ルーブリックを用いた探究スキルラーニングの実施率(フィードバック実施も含む)を評価し全教員実施を目指す。</p>	<p>A. 評価B</p> <p>B. 評価B</p>	<p>A. 高校で月一回運用できたが個々のアワードバックが履きこむことがわかったので次年度改善。中学校は一部ルーブリック完成したが、全学年の完成には至っていない。</p> <p>B. 探究スキルラーニングの実施率は92.0%となり全教員で取り組むことができた。しかし生徒個々のフィードバックまでできたのは64.0%であり評価入力業務の軽減等の課題を残す結果となった。</p>
重点目標2に グローバル・ダイバーシティ教育 対応	<p>A. 英語や多様性に対する苦手意識を取り払いグローバルに向かう姿勢を整える。</p> <p>B. 英語4技能の育成を推進し英語をツールとして活用できる人材を育成する。</p> <p>C. 多様性とは何かを自分の考えで意見できる人材を育成する。</p> <p>D. 自分の意見を伝え、相手の意見も聞ける学校空間を作る。</p>	<p>A. 昨年度までおこなってきた英語イベントの実施や海外留学生の受け入れを体系化し6年一貫のモデルを構築する。</p> <p>B. 外部英語試験を推奨し、試験合格に向けて具体的な対策講座を学内で開講する。特に中3以上の取得率の向上を目指す。</p> <p>C. 各学年にて多様性の理解を促進する行事を企画し実行する。高校生については外部入学者も考慮しながら事業を計画する。</p> <p>D. ポジティブに自分らしさをだせるクラス作りをおこなう。そのために生徒の困り事を洗い上げ、フォローできる体制をつくる。</p>	<p>A. 体系化したモデルを構築できたかどうかを評価とする。また、コロナ禍でも対応できるようオンラインイベントなども併せて検討する。</p> <p>B. 各学年で目標値を決め、その合格率を評価基準とする。中1は英検4級、中2は3級、中3は準2級。高校については高校3年で英検2級80%以上、準1級10%以上とする。</p> <p>C. 昨年度実施数の少なかった高校における実施を検討しつつ、各学年における事業を整理し6年間体系化した活動を実践する。また、コロナ禍でも対応できるようオンラインイベントなども併せて検討する。</p> <p>D. フォロー体制の構築と、各クラスでの運用状況を評価とする。</p>	<p>A. 評価A</p> <p>B. 評価B</p> <p>C. 評価B</p> <p>D. 評価A</p>	<p>A. 英語科が中心となって英語教育の6年一貫モデルを作成した。さらにコロナ禍であったがオンラインで県外とつながり、英語学習やグローバルについての学びを進めた。</p> <p>B. 中1英検4級以上(58.5%)、中2英検3級以上(66.7%)、中3英検準2級以上(66.7%)、高3英検2級以上(58.33%)、準1級以上(19%)。次年度は80%に近づいたための方略を考え具体的な取り組み方法を生徒へ提供することとする。</p> <p>C. 本年度は中学校道徳シラバスの見直し、教員研修実施を中心に整備、企画、実施した。中学道徳の整備はできたが高校の人權・福祉学習は整わず、各科目内やプロジェクトとして実践されることが多かった。次年度は高校人權学習等を整備することで6年間体系化された仕組みとなり、生徒にとってより有意義な活動とする必要がある。</p> <p>D. Googleスプレッドシートを活用した週末アンケートを毎週金曜日の朝SHRで実施した。生徒からの意見は担任が確認し、該当生徒へのフォローをする仕組みを構築した。</p>
重点目標3に キャリア教育 対応	<p>A. やりたいことから目標を設定し実行できる人材の育成。</p> <p>B. 国内大学だけでなく海外大学進学への興味関心を向上させる</p> <p>C. 探究活動やグローバル教育をとおし、将来のビジョンを明確にした進路を考える生徒を育成する。</p> <p>D. 選択した進路を実現できる自律した学習者を育てる。</p> <p>E. 課外活動への支援の充実</p>	<p>A. やりたいことを目標設定し実行する仕組みに対して、フィードバックを得る機会の構築。</p> <p>B. 国内大学や海外大学へ進学した本校卒業生に依頼し、学内説明会や交流会を実施する。</p> <p>C. 高校3年生の進路支援計画をもとに中学1年生まで逆算した進路計画を作成し生徒・保護者へ提供する。</p> <p>D. 自律した学習者を定義し、行動に移すための枠組みを作成する。</p> <p>E. 生徒会とも協力し生徒と学外との結び付けを支援する仕組みを構築する。</p>	<p>A. 昨年度の反省を活かしフィードバックを得る機会をもてたかどうかを評価とする。</p> <p>B. 本年度末の海外進学希望者数の割合が中学生5%、高校生10%を目指す。</p> <p>C. 6年間の進路支援計画を体系化できたかどうかを評価とする。</p> <p>D. 行動の枠組みを作成し一部の学年で試験運用することを旨とする。</p> <p>E. 支援体制が構築できたかどうかを評価とする。</p>	<p>A. 評価A</p> <p>B. 評価A</p> <p>C. 評価A</p> <p>D. 評価C</p> <p>E. 評価A</p>	<p>A. 全学年で個人毎に「好きなこと」「得意なこと」「価値観」「社会から求められること」を基盤に目標設定をし学期末に振り返りの時間を設定した。来年度以降もキャリアパスポートとして仕組みを継続していく。</p> <p>B. オーストラリアの大学へ進学した卒業生に依頼し学内にて海外進学説明会を実施。その他、留学や進学などの説明会を数回実施した。海外進学希望の割合は海外進学希望が中学(2%)、高校(7%)、国内と迷っているが中学(41%)、高校(13%)であった。</p> <p>C. 進路支援部が中心となり6年一貫の進路計画を作成した。次年度は計画に基づいた詳細計画をたて実行することとする。</p> <p>D. 自己調整学習に着目し自己調整学習に基づいた学習支援方法について学内共有を図った。しかし、具体的な方法を生徒に教授するまでには至っていない。次年度は具体的な方法を策定し、一部の学年などで試験運用を試みることにする。</p> <p>E. プロジェクト制度(課外活動応援制度)による課外活動の充実が図られ、プロジェクト説明会やオンライン学園祭での説明が実施できた。プロジェクト報告書にまとめることができ、支援体制の強化につながったと考えられる。</p>
重点目標4に ICT・図書館 対応	<p>A. ICT機器や探究ツールの高度な利活用を全校生徒が実践できる環境作り。</p> <p>B. 各授業における先進的ICT活用の実践。</p> <p>C. 探究活動やSSH事業を支援する学校図書館の整備</p>	<p>A. 探究委員会が中心となりICT機器や探究ツールの利用方法を作成し共有を図る。</p> <p>B. 各教員の探究スキルラーニングの取り組みをICTを使って共有する。</p> <p>C. 探究やSSHのために拡充した自然科学分野、総記(情報科学)、英語多読に関連する資料を使った探究スキルラーニングを実施する。</p>	<p>A. 利用方法の作成進捗度を評価基準とする。</p> <p>B. 情報共有システムの作成進捗度を評価基準とする。</p> <p>C. 探究スキルラーニングの実施状況を評価基準とする。</p>	<p>A. 評価B</p> <p>B. 評価A</p> <p>C. 評価A</p>	<p>A. クロムブックやmacの貸出、Google Classroomの利用など探究活動に必要な機器やサービスの利活用方法を学内で共有し運用を進めた。</p> <p>B. 学内共有サーバに各教員の探究スキルラーニングの成果物をアップしどの教員もアクセス可能とした。また、公開可能なものは学校ホームページにアップし一般公開も実施した。</p> <p>C. 自然科学分野の資料を高2英語で活用。英語多読資料は中2・中3・高1英語で活用。情報科学については探究の授業で活用することができた。</p>
重点目標5に 学校創造 対応	<p>A. やりたいことを行うための最低限のルールの見える化と共有</p> <p>B. FTAのワーキンググループ活動の活発化</p>	<p>A. 建学の精神や生徒会ルールなど見える化し学内掲示や学校HPなどで共有する。学内で情報共有会を実施する。</p> <p>B. 昨年度の反省から高校の保護者向けイベントを企画し、高校の保護者参加増加を目指す。</p>	<p>A. 情報共有会を実施し、理解度を評価とする。</p> <p>B. 各家庭からワーキンググループ活動へ年間2回の参加を目指す。</p>	<p>A. 評価B</p> <p>B. 評価B</p>	<p>A. キャリアパスポートの1ページ目に建学の精神を掲載し共有を図った。「青翔開智らしさを考える会」を年3回全校で実施し、学年縦割りし青翔開智について理解を深める機会を設けた。5段階の理解度アンケートによる理解度は探究(3.53)共成(3.70)飛躍(3.33)となった。次年度は更なる理解浸透と特に飛躍についての理解を深める必要がある。</p> <p>B. コロナ禍ということもあり学校で行事が中止が相次ぎ参加数が伸びなかった。その中でもオンラインでAPU出口学長の講演会やオンラインの情報モラル講演会の実施など、オンラインでも参加できる企画を実施し保護者に参加してもらった機会を作った。</p>
重点目標6に コロナ対応 対応	<p>A. 学校説明会、オープンキャンパス、入試説明会をオンライン化し生徒募集の参加低下を予防する。</p> <p>B. 長期休校に備えたオンライン授業体制の構築</p> <p>C. 学習遅れに対する対応</p>	<p>A. youtubeやzoomを活用したオンラインベースの新しい募集行事を構築する。</p> <p>B. Google Classroomをベースにした授業配信、課題収集、Google meetやzoomを使った双方向授業の確立。</p> <p>C. 学校行事や長期休校を見直し、学習フォローができる体制を再構築する。</p>	<p>A. オンラインで募集行事が実施できたかどうかを評価する。</p> <p>B. 常勤教員のオンライン授業の実施状況を評価とする。</p> <p>C. 教員や生徒からの意見も聞きながら学習計画を柔軟に再スケジュールできたかどうかを評価する。</p>	<p>A. 評価A</p> <p>B. 評価A</p> <p>C. 評価A</p>	<p>A. オンラインでの学校説明会、zoomを活用したオープンキャンパスでの模擬授業など、オンラインを活用した募集活動を実施できた。中学の受験倍率が2.0倍を超えるなど実績につながった。</p> <p>B. 4月の一斉休校中は全教員で協力しオンライン授業を提供した。若手を中心となりGoogle Classroomやzoomの活用を全教員で共有しオンライン体制を構築した。</p> <p>C. 1学期の休校で特に遅れは生じなかったが、生徒にアンケートをとったところ理解度の不安があったため、夏休みに1週間特別補習をオンラインで実施した。</p>

評価基準 = A:ほぼ達成(8割以上) B:概ね達成(6割以上) C:変化の兆し(4割以上) D:不十分(4割未満)